

会 議 要 録

発注者名	浪江町企画財政課	受注者名	ランドブレイン株式会社 (LB)
会議の名称	第3回 浪江町復興計画【第三次】後期基本計画策定委員会		
開催日時	令和7年8月28日（木）13：30～16：30		
開催場所	室原防災交流センター		
構成員	出席者：（別紙名簿） 事務局：浪江町企画財政課 受託者：ランドブレイン㈱（当日欠席）		
次第	1 開会 2 挨拶 3 議事 ▶ 後期基本計画(案)の確認について＜資料1＞＜資料2＞ ▶ 後期基本計画「こども版」の作成について＜資料3＞＜資料4＞ 4 その他 5 閉会		
質疑応答			
次第3	後期基本計画(案)の確認について		
関谷委員長	・事務局説明＜資料1＞＜資料2＞ 今御説明いただいた1章の農林水産業の再興のところでご意見あればお願いしたい。皆さまの意見は必ず反映されている形で修正されている。計画書の本文が完成形になるので、本文を読んでいただき、変更が必要な部分や、修正のご意見あればいただきたい。本日、全部見切れないと思うので、気づいたところは後で言うても構わないが、できるだけ本日の委員会でいただけると助かる。 皆さんが考えている間に、浪江町は熊の出没はないか？		
事務局	熊の目撃情報が2件あり、注意喚起をしている。		
関谷委員長	熊のことも記載したほうが良い。		
鈴木委員	震災前から目撃情報はある。		
関谷委員長	熊の増加なども懸念されていますというのは強調して書いてもいい。全国的にも話題になっているので書いていただきたい。		
大波委員	津島自体、人口が戻ってきている状況ではないので、やはり厳しい気がするのだが、今後、津島地区の農業について町としてはどのような考え方をしているのか。また、津島地区の住民で担い手の方たちの話があればお伺いしたい。		
事務局	津島地区の大部分が帰還困難区域ということで特定帰還居住区域という制度で除染をして住める状況に進めているところ。農業やなりわいを帰還して再開できるように同時並行で進めていくべきだという議論になっている。今、農地も含めてなるべく生活圏を広くとって除染をするというようなエリア設定をさせていただいたところ。今後、除染の進捗などを踏まえ、津島地区ではどういった方がどういったものを作りたいのか、農業の地域計画を策定していきたいと考えているが、具体的に除染が終わったわけでも、何か説明会を始めたわけでもないなので、これから検討することになる。町としては、津島で農業を再開したいという方になるべく帰ってきていただいて、再開していただくという方向で支援していきたいと考えている。現在は水の必要があまりないリンゴ栽培の実証が行われている。今の津島の田んぼは用水路が全然復旧がさ		

	れてない状態のため、整備が必要になり時間がかかる。水を使わないリンゴは有効な手段の可能性もあり、町でも注目をしている。帰りたいと言った人がどういった営農をしたいか、そのためにはどういった整備が必要なのか、どのくらいの規模でできるか、そういう事情も含めて地域の方々と話し合っ、計画の作成や支援をしていきたいと考えている。
大波委員	そういう状況であることは理解した。ここまでお金をかけて除染が必要なのかと思う事はあるが、津島地区の皆さんなり、行政がそこまでお金をかけたので、農業も少しずつ進めばいいと思う。
関谷委員長	3章に帰還困難区域も具体的には書いてないようなので、1章か3章のところに今の津島での農業の再開について項目として具体化されてないということだが、現状と課題のあたりに商工業も含めて1項目入れるかどうかちょっと検討いただきたい。
佐藤（秀）委員	平成だけでもその後ろに括弧書きして西暦何年って記載した方が皆わかりやすいのではないと思う。
事務局	確かにその通りだと思うので、括弧書きでやるのか、もしくは全部西暦表記にしたほうがいいのか。いただいたご意見踏まえて事務局で検討させていただきたい。
前司委員	大柿ダムの容量とか水不足はあまり問題ないなか。農業をやるのに、みんな大柿ダムから水を引いているのではないか。
鈴木委員	今のところは間に合っているが、双葉も再開してくると足りなくなる。
事務局	大柿ダムについて農業用の用水路のダムということで町内においてもまだ用水路に通水している箇所も限定されている。限定的な営農の再開にとどまっているため、水が足りないといった声は現状確認されていない。
半谷委員	担い手不足のところで、来たら逃がさないくらいに囲い込まないと就農定着してくれないと思う。就農したくて浪江町に来て、米作りに挑戦してみたけど駄目だったから、次は玉ねぎに挑戦してみようでもいいので、失敗したら、浪江町から出て行ってしまうのは、もったいないので、逃がさないくらいのつもりで囲い込んで欲しい。就農フェアに来た人はもう逃がさないくらいの気持ちでやってほしい。農業をきっかけに浪江町に来てもらった人が、浪江町で別の仕事をしてもいい。結局その人が浪江町に来てもらって浪江町に住んでもらえれば人口がプラス1人になる。担い手不足の対策で目指す姿、取組で農業の法人化と農業法人の誘致が担い手不足の対策になるのか、常々、疑問に思っている。スマート農業についても就農するハードルが上がるだけ。スマート農業をフルでやろうとすると極端な話、トラクターが200万値上がりする。そうすると就農したくとも就農できなくなる。就農をきっかけに浪江町に来た人をみすみす浪江町の外に出さないでほしい。一回ダメだったとしても辞めないで町でサポートしてその人にあったものを見つけられるような研修など、フォローするような仕組みがあるといいと思う。
関谷委員長	5ページだが、担い手不足のところ、担い手不足対策に積極的に取組みます。就農相談や…というような形にしてはどうか？積極的に取組みますという感じでストレートに書いてもらった方がいい気がするが、文言としてはどうか？文章として積極的に取組んでいるという姿勢を出して欲しいという意味だと思う。法人化だけではなくもっと担い手不足に重点を置いてということだと思う。この文章の順番はこのままでいいのか。

事務局	順番は変えられる。
関谷委員長	では担い手不足のところ、順番を前にして除染やため池を下にしてもいいのかと思う。担い手不足が現状の1番の課題であれば、1番上において担い手不足に積極的に取組めますみたいな感じのストレートに書いていただいた方がいいと思う。これは書き方の問題の気がするため修正をお願いしたい。
前司委員	先週、「あの日の家」をやっている東京大学の富井君に呼ばれて、東京の上野で開催した浪江フェアに来てコメントしてくださいって言われたので参加してきた。東京農業大学の学生も来て、私は浪江に行きたいが、農業はガチではやりたくない、繁忙期にお手伝いをしたい。みたいな20歳くらいの女の子がいた。そういう人もいるから、移住支援に力を入れた方がいいのかと思う。
大波委員	確かに東京農業大学の学生でいちじくの手伝いに来ていて。加工品を作ったりしている。ただ、自分達の楽しみの一つで来ているような感じがあって移住は期待できないと感じている。東京農業大学の卒業生で、嘱託で農家にお手伝いに来ている方もいるので、農林水産課でその辺の努力はしているのだろうなと私は思っている。玉ねぎなど、何年も作ると病気になってだめになってしまう作物もあるので、休耕の畑を役場の方で貸してもらえそうな仲介をしていただければありがたい。
関谷委員長	農林水産のところは以上で終わりたいと思う。商工業のところが多いので後半に回させていただき、先に第2章にいきたい。
	・事務局説明
関谷委員長	基本にご意見いただいたところで文章に含まれてなかった箇所については修正をいただいて、文言を整えていただいている状態だと思う。第2章についていかがか。
鈴木委員	26ページの現状と課題の中でグラウンドゴルフとかバレーボールとか再開したと記載があるが、グラウンドゴルフとパークゴルフで普通のゴルフは含まれていないのか？町民ゴルフ大会を秋にやるのだが、震災後、一昨年から復活して、何十回と続けている大会なのだが、その辺も含めて書いていただければと思う。商工会と町が後援している。
関谷委員長	ぜひ記載をお願いしたい。
佐藤（祐）委員	細かい話だが、30ページ、平成24年度とか何月とかがっているのは、全角と半角が混在しているのだが、それはそれでいいのか。
関谷委員長	たぶん西暦月が2桁だと半角になって、1桁だと全角になっているような気がする。確認して全体を統一していただければいいと思う。
小林委員	22ページのオレンジの◆4つめ、国内外のすべての人（障がいの有無、外国人、高校生など）とあるが、障がいの有無で切れているのが、ちょっと文章的に違和感がある。障害の有無に関わらずとかそういう言葉になるのかと思う。現状と課題のところでは小児医療体制の整備等々が多く回答されてこうした子育てニーズに対応していくことが必要となっていますに対応するのがおそらく23ページの一番上の◆1個目のところだと思うのだが、ここが医療についてほとんど書かれていなかったもので、関係機関と連携し、というところをもう少し詳細に書いていただいた方がいいかと思った。
関谷委員長	医療・保育など関係機関というところですね。
葛西委員	小林さんと同じ場所で気になる場所があったので重ねて質問させていただきたい。先日、赤ちゃんを産んだ移住者が、もう浪江町では子育てできないと言って自分

関谷委員長	の地元に戻ると言っていて、その計画を立てていると聞いた。この本文に環境作りを継続しますと書いてあるということは、これまで何かやっている、さらに何かをやろうとしているというふうには書かないと継続されているのは何で今後どうなっていくのかということが見えないと、そういう方がこの復興計画を目にしたときに、何をやっているんだと思うのかなということと、これまでやってきたことがあるはずなのでその部分は書いておくといいのかなと思った。やはり産む場所も遠いのと、産んだ後の訪問が1回とか支援が不足しているのは否めないというところ、最近、子育て環境にいろいろ問題が発生していたので、教育環境、子育て環境に今、違和感を抱いている移住者が多数いるので、そこが反映されるといいと思う。
小林委員	計画なので、もっと具体的に言っていただいて、文言を残しておいた方がいいと思う。 言えばきりがなくなってしまうが、1つはやはり病児保育がないので基本共働きで、核家族で過ごしているので病気になったときに預ける先が親族含めてないということであったり、土曜日に子供クラブが開いていないので土曜日の預かりをどうしたらいいのかなと感じている。小児科が月2回は来ているが、広報にその月の小児科医の日程が載っているが、広報を送られてきたときにはもう終わっていたりする。年間を通して日程を出していただかないと子育て家庭が予定を立てたり、把握するというのが今の状態だと難しい。わざわざホームページを見て行くというのはなかなかないので、もう少し子育て世帯に対してダイレクトに情報が届くと良い。情報格差があり、知っている人は知っているけど知らない人は何の情報も知らない状態で、子育て世代それぞれにきちんと情報が届くということをしなないといけない。あとはPTAとこども園も保護者会がないので保護者同士の繋がりの方が持ちづらいというのは、ずっと前から問題意識がある。ファミサポも事業としてはできるようになっているが、提供会員が集まらないので実施できない現状があると教育総務課から伺っているが、そこをどうしていくかという検討もぜひ課を越えてやっていただきたい。
葛西委員	先程の訪問が1回しかないというところで、産婦人科が遠くてパッと助けてと言える場所が1時間自分で赤ちゃん連れて運転していくというハードルの高さとかその間を繋ぐ何か浪江町の中であるとお母さんのよりどころになるサポートができるのかなと思った。家の前に助産師さんが引っ越してきて、その方が浪江町でニーズがあるならやりたいということもおっしゃっていたので、そういう方がいるのであれば、逃さないというか、ここの関係機関というところに、そういう有資格者の町民等とか、そういうところも含めるとすごく可能性は広がるし具体化していくのかなと思った。今、子供家庭センターの浪江町版のパンフレットが配られるのだが、本当に町内だけで完結できるのかというものが載っている。産後ケアとか、町外の話で、町外で受けるものの話がパンフレットになっていたりすると、町内にあると思ってきたけれども、町内にないと知った時のギャップがすごい激しいので、町内だとこれとこれができます。他、これとこれは町外での利用になりますという一覧になっているパンフレット等があると良い。それが必ず子育て世帯全世帯に届く、母子手帳と一緒に渡す取組をかなり丁寧にやらないと子育て世代がどんどん転出しますと言っているので急を要することかと思う。

関谷委員長	それは役場でぜひ対応してもらわないといけないと思うし、この復興計画に関しては、まだ文言の修正は可能か？
事務局	可能である。
関谷委員長	そうであれば小林さんと葛西さんをお願いになるが、22 ページ目の◆の2つ目と 23 ページ目の◆の1つ目をお2人で修正案を考えていただけないだろうか。不足しているのであればもう現状と課題にこれが不足している、大きな項目としてこの5年間でこういうことが必要ですと書いてもらった方がいい。総合計画なので、5年間でこういう方法でやっていくと書いていただいた方が、行政としてもその方向でどうか議論しやすいと思うので、ここは言葉をもらった方がいいのかなと思う。5年間の課題なので、大きめの課題にさせていただけるといいと思う。細かい具体的なのは役場にぜひ言っていて、でも総合計画としてそういう多分が必要だと思うので、今言ったことは、今後5年間ずっと課題として残り続けたら問題なのでぜひ書いていただいた方がいいと思う。 では、次、第3章に進みたい。
事務局	・事務局説明
関谷委員長	皆さん、ご意見をお願いしたい。
前司委員	ゼロカーボンシティの推進で午前中の環境審議会でも話させていただいたが、CO2を減らすということで水素利用を促進すると言ってもなかなか難しい。ましてや機械が通常の3倍のリース代がかかる。やはり町が計画を作っても民間がやるかというやらない。ゼネコン全部に頭下げて営業をかけても結局全然駄目で、結局、やるにはやはり民間であれば社長判断とあとは行政の発注する仕事、工事と調達業務とかにグリーン調達で水素を利用するとか文言を入れるとかしないと民間は多分、町は掲げているけど、そんな高いのは無理だからってやらないので、発注の段階で水素利用を限定して入札段階で予算計上して、落札したら、必ず使うという形にしてもらえるといいと思う。推進、推進というが、公用車の半分を水素と電気にしますと言っても、皆さんのプライベートの車はどうなっていますか、役場職員に聞くと皆、「うん」って頷くだけという状況なので、何が推進で何が現実化してるのか、ただ書いているだけになっているので、もっと縛りというか仕組みを作ってやっていった方が効果的に削減できるのではないかと思った。
事務局	いただいたご意見について、役場全体で考えないといけない部分もご提案いただいたと思うので、検討させていただく。
関谷委員長	普通の市町村のゼロカーボンシティではなく、水素をどう考えるのかを明確に書いて実際、役場として、町としてどのように進めていくのかを記載した方がいいと思う。39 ページの上から3つ目の◆だが、町民の放射線や PFAS に対する不安の解消のためという文章について、この並びだったら、PFAS は抜いていただいた方がいいと思う。この地域にとって放射線と並べるのはちょっと違和感がある。放射線の不安というのも、この時期でどうなのかとは思いますが、残すのであれば PFAS を抜いた方がいいと思う。
事務局	39 ページの PFAS の部分についてだが、PFAS の問題が今回、後期復興計画で追加になった課題になっており、それをこの取組に書き込むときに元々あった放射線の不安解消のためのところに PFAS という言葉をくっつける形で修正をしたので言われるよ

関谷委員長 小林委員	うに違和感があるかなと感じた。書き分けるかどうか文言の調整をしたいと思う。 必要であれば分けてもらった方がいいと思う。 防災・安全の強化というところで、先日津波警報が発令された際に、子供たちは学校の３階に垂直避難するという避難訓練とは違う避難をしたのだが、結構戸惑った方も多くて、皆さん実感が湧かなかったという話を聞いているのだが、この前の津波警報での対応、学校とかこども園、役場とか避難所開設したところに出てきた課題は役場でも把握されていたりするのかな。
事務局	今回、今までやってきた訓練と違うやり方をしたり、まちまちな対応が多かったということは内部でもいろいろな意見が出たところで、防災を担当してる総務課が今回の対応の何が悪かったのか、改善点があるか吸い上げて、まとめて分析をして、何かしらの内部共有の場で共有されるものだと思っている。今回、対応が十分ではなかったという意見は内部でも出ているので、しっかり検証はしたいと思っている。
小林委員	そういう災害が起こった後の検証みたいなものも盛り込んでもいいのかなと思った。葛西さんのご意見も聞きたい。
葛西委員	樋渡牛渡では LINE グループが出来ているのでそこで情報が飛び交っていた。43 ページの下から３つ目の◆の文章のところについて、機材が変わって、新型になって何が変わって、その機材が変わったところで入ってくる情報が変わらなければ、混乱は、住民、町民の中で生まれ続けると思うので、まさに今、小林さんがおっしゃった、その課題としてあがったことが、この計画が公表される前に、体制の部分で具体的に方針が固められるのであれば、人の動きというか、機材ではどうにもならない情報伝達の部分もあると思うので、そういうところも具体的に書かれているといいと思う。書くことで体制通り、情報発信もしようという体制も整っていくのかと思うのでぜひその経験を踏まえながら、文言として、書かれるといいのかと思う。
前司委員	ゼロカーボンの中にゴミを減らす 3R って書いてあるのだが、逆行的なことを言うてしまうのだが、毎朝散歩しながらゴミ拾いをしている。そうすると、大体拾うものはタバコ。大体落ちているところは決まっていて、駅前。喫煙をしないようにするのが一番だが、喫煙場作らないとその辺で隠れてタバコを吸って捨ててしまうので喫煙場などを整備した方がいいのではないかと思った。毎回バス停のところに落ちている。どこの項目に入るかはわからないがご検討いただきたい。
事務局	基本的に公共施設の敷地内は禁煙となっているのでその上で吸えるところを、どこで設けるのか。役場だけではなく、様々な団体で集まっていただく会議などで話題を投げて、話し合うべきなのかなと思う。
関谷委員長	確かに都会だと路上喫煙の禁止区域があるから喫煙場所が用意されていて、それが明確でないから喫煙場所が用意されていなくてそこら辺で捨てるというのは確かにそうなのかもしれないと思う。
小林委員	今の駅前開発計画で、駅前の施設と産官学連携施設の中に喫煙所を設けるみたいな計画案はあるのか？
事務局	今の段階では喫煙所を設けるといった議論はない。
佐藤（秀）委員	駅前のゴミステーションの置き場所がない。今あるゴミ箱の位置が開発に引っかって邪魔だと言われていて避けなければいけない。これから町を開発するときにはゴミステーション置き場を作りながらやらないといけない。

関谷委員長	計画などで防火・防災、交通安全、ゼロカーボンがあって、ゴミとか廃棄物問題の項目がないので、それをどこかに記載するというのはどうか。確かに佐藤さんのおっしゃったゴミステーション問題とか、タバコは書きにくいかもしれないが、廃棄物とかゴミ箱とかそういうのを整備するのはまちづくりの一貫だと思う。確かにゴミ置き場が少ないような気がする。
石川委員	我々漁業者の立場からするとタバコなんかも結構、見づらいのもあるのだが、ポリ袋とか、結構海に流れてくる。それがエンジン部分に詰まってしまうとエンジンの故障に繋がったりする。海だけの問題だけではなく、網に引っかかったペットボトルとかそういう袋などのゴミは回収して、漁業関係者みなでお金を持ちよって処分する方法をとっている。タバコもそうだが、一般のゴミ、そういうようなものももう少し考えてもらいたい。
関谷委員長	政策４のどこかに今、皆さんがおっしゃった廃棄物とかゴミステーションとかタバコとか、要は普通の一般ゴミの問題を記載する項目を考えていただいてもいいかと思う。温暖化対策とかゼロカーボンとかリサイクルとかもそうだが、その手前の問題として、普通に生活しているまちづくりとして、ゴミ問題をちゃんと考えていくんだというのはいってもいいかと思う。
事務局	ゼロカーボンの取組の中の一つに入れるのではなくて、もう一般廃棄物の問題を抜き出したページを作るといようなことか。
関谷委員長	47 ページの絵が廃棄物の削減・リサイクルなので、もう１個くらい付け足してもいいと思うし、◆で１行くらいつけてもいいと思うので、どこかに入れておいていただいた方がいいと思う。身近な生活環境の問題としては一番大事だと思う。再生可能エネルギーとかゼロカーボンとか大きな話よりは、町の計画なので、自分たちの町を綺麗にするという、そこが一番最初に来てもいいのかと個人的には思う。 42、43 ページの防災・安全の強化のところは、東日本大震災を踏まえて、今後考えられる日本海溝の津波や北海道三陸沖地震やそういった津波防災について考えます、みたいのが一行あってもいいのかと思った。計画なので具体的な細かいことは多分この間の津波警報を踏まえて議論されると思うが、総合計画なのでそういう津波防災改めて考えますっていうのは、東日本経験したこの地域だからこそ必要な文言なのではないかなと思う。それが防災のところにないので、やはり東日本大震災、東北地方太平洋沖地震を踏まえてというのはあってもいいかと思う。 この間の７月のカムチャツカ沖の地震は、岩手、宮城でも困っていて、堤防が整備された地域がどうやればいいのか分からないという状態に陥っている。要は、堤防があるところは津波が堤防を乗り越えた場合、堤防をゼロにして浸水してくることを前提にして避難を考えなきゃいけないので、ものすごく内陸まで浸水区域全体を踏まえて、避難を考えなきゃいけないという計画になっている。本当にそれで正しいのかみたいな議論がずっとあって、堤防が整備されてない地域はいいが、整備されている地域はどういうふうにやればいいのか、岩手、宮城でも議論になっている。これからの津波防災をどう考えていくのかは書いていただいてもいいかと思う。東北地方の東日本の被災を受けた地域の課題でもあると思うのでぜひ書いていただいてもいいかなとは思った。
小林委員	町でアプリとかLINE 配信を今準備中だったか計画中だったかと思ったが、そういっ

事務局	たものはこういう災害時も町の情報発信というところでも使う想定なのか。 いわゆる DX 推進計画で、いろんなデジタル技術を活用した取組を推進しようというのは一昨年度から行っている。その中で行政からの発信や、町民の皆さんからの質問とかも含めて、チャットボットでお返しできるような、いわゆる浪江町公式 LINE を作って、その中で様々なサービスの問い合わせ等を、町からの情報発信を広くできるようにしようと検討中である。どういったところまでやればいくらかかるかも含めて、調整中だが、一応、緊急時の情報発信も含めて検討していきたいと思う。
大波委員	防災の件で、先日カムチャツカの地震のときに幾世橋、それから浪江は中学校、大堀グラウンドの施設、それから荻野小学校とこととそれぞれ避難する場所があって、各地区にどのくらい避難したのか、統計的なものはわかっているのか。
事務局	避難所として設定したのは幾世橋のコミュニティーセンターそして浪江中学校跡の防災センターとあそここの 3 ヶ所、あと役場も一時、避難されてきた方を受け入れたが、ほとんどの場所でも 10 人いかないくらい。室原防災交流センターで会社の従業員が集団で一時期避難されたということがあった。
大波委員	参考のために、各施設に飲み水とかちょっとした食料というのはストックしてあると思うが、室原防災交流センターが一番大きいから一番あると思うが、大体何日分くらいの備蓄があるのか。
事務局	即答はできないので調べる時間をいただきたい。
大波委員	町民の方にはきちっとした周知徹底はきちんとしておく必要があると思う。機会があればどのくらいの備蓄があるのか教えていただければ参考になる。
事務局	先ほど質問いただいた回答となるが大体 3 日分くらいの備蓄がある。
前司委員	休憩
	録音 2
前司委員	都内の学生がいずれ浪江町で起業したいから、それまで働きたいと言って、私のところで働かせてくださいと言ってくる。うちは厳しいよと言ったりするが、そういう子が来たいと思うときに浪江町に来やすい環境を作ってあげれば移住してくれると思う。
鈴木委員	以前、津島に事務所を運んでくれてって言われて、わざわざプレハブの事務所運んだことがある。
前司委員	ドラッグストア 30 分、美容室も 30 分、津島いったら 1 時間だよって言ってもそれでも行きたいと言っている。学生の受け入れ方法の体制というか、そういうのもあった方がいいかなと思う。
関谷委員長	現在は大学の授業の一環で学生を連れてくることが多いが、教員もそのうち減ってくると思うが、学生個人で来るのはそんな簡単にはなくならないと思うので、そこをどう強化するかというのは確かに本当に課題だと思う。本当はバラバラで来るようになればそれが一番で、もっとたくさん来るようになると思う。ニーズはあると思うのだが、もしも何か支援があるのであれば、夏休みとか長期休暇だけかもしれないが、結構需要があると思う。僕の学生も 1 年間ほとんど休学して、移住していた子がいて、そういうのをきっかけにして何かいろんな繋がりが出てくると思うので、そういう支援が必要かもしれない。
前司委員	うちで親子 2 代で働きたいっていう人が来て、21 歳の子がたぶん移住してくると思

	うのだが、親が先にこっちで働いていて、聞いたら、やっぱり移住して支援メニューがあるのはすごく良くて、本人曰く不便よりも趣味の時間に没頭できれば何でもいいと。そういうところがあるので引き継ぎ、移住定住に関して支援メニューは拡大してもいいのかと思う。
佐藤（祐）委員	例えばだが、68 ページの 2 つ目の◆のところで、令和 4 年度決算の歳出総額と記載があるが、これは令和 5 年度とか 6 年度はないのか。
事務局	行政は 9 月に決算、議会に報告して確定というか、承認してもらうという作業が 9 月定例会にあるのでそれが終わったら決算が確定するので、この計画は 3 月策定になるので、ここは最新のものに書き換える。
佐藤（祐）委員	3 月の時点で最新の数字を出すということか。
事務局	そういうことになる。
小林委員	さっきの大学生の話がどこに繋がるのか計画書見ながら思ったのだが、関係人口を増加させるというところに一番近いのかなと思った。例えば就労支援とか人材育成だとか観光交流だとかそっちにもしかすると大学生だとか就職前の方々が浪江に来るきっかけを作っていくというところが入ってくるといいのかと思う。その将来の浪江町を担う人材を育成しますという文言があるので、具体的にどういった方々を呼び込むのかというところを、例えば大学生とかって書き込むということもいいかと思うし、インターンの受け入れというところも、今、町としては、大学生のインターン受け入れとかってというのは実績として何かあるのか？
鈴木委員	F-REI に 3 人いた。
小林委員	就活の前の時期とかに合わせて促進するとか、あと宿も双葉の杜じゃなくて、もう少し安いところを町で準備するとか、そういうところをセットで紹介していくっていうのもいいかなと今聞いて思った。
	あと健康づくりのところ、51 ページ上から 2 つ目の◆のところで心のケアセンターに※印が付いているのだが、この※印は何に対応してるのか。そして、その下段のゲートキーパー養成講座についてはたぶんゲートキーパーって何だろうっていう方が結構いるんじゃないかなと思ったので、もう少しわかる文言でもいいのかなと思った。
	最後のその◆で、町内における安定的な医療体制の構築のところで、文章の 3 行目の高齢者等町民が住み慣れた地域自分らしく人生の最後まで暮らせるようっていうところはもちろん大事だと思ったが、プラスで町民全員がっていうところの視点も、この健康づくり推進、医療の充実というところで、目指す姿と組み合わせて中に入れていただきたかった。なぜそう思ったかと言うとさっき言ったように子育て環境のところで医療機関の体制というところが、文言が少なかったっていうところもあるのだが、子供だけでなく本当に町内に住んでいる方々向けに医療体制を充実させていくっていうところの部分をもう少し書いていただくのがいいのかなと思う。
関谷委員長	51 ページの最後のところは高齢者に焦点を当てた記述になっているが、今小林さんがおっしゃったように、あらゆる世代が町内における安定的な医療体制を構築してその医療環境を受ける権利があるというふうなことに直していただいて、一番先頭に持ってきた方がいいような気がする。健康維持とか健康診断とかちょっとそれよりも後で、今たぶん浪江町で近々の課題っていうのはちゃんと病気になったときとか出産の

ときとかに医療機関にすぐかけられるとか、要は広域的な連携も踏まえて重たい病気やケガになった時にかかれるというのが多分一番大事なポイントのような気がするので、一番上にもってきていただいて、次に結構管理かなと思うので、ちょっとここ高齢者だけのことになっているのでちょっともう少しあらゆる世代にいうような形にして、ちょっと前の方に持ってきていただけるといいかなと思った。あと小林さんが最初におっしゃった大学生のこととか他からの関係人口とか、移住を考えている人が、こちらの地域に訪問する時のことや大学生などを呼び込むためにというのは多分おっしゃる通り 1 章の 17 ページあたりにちょっと強調して書いていただくという形がよろしいかなというふうに思った。

前司委員

ふるさと納税の寄付件数が現在値と目標値があるのだが、金額ではなくて、件数でやるのは何か意味があるのかと、今、現状毎年増えているのか、減っているのかを教えてください。

事務局

件数にした主な理由というのは一件一件で金額が多かったり少なかったりでまちまちで結構多めにいただける場合もあって金額では年によって波があり、安定しないということで、それよりは浪江町っていうものの認知拡大も踏まえて件数を多くした方が、目標値としては好ましいのではないかとということで件数にした。今の件数は、一時期 2 年前の処理水の海洋放出のときにぐっと上がったが、そこから翌年下がり、少し下がってきている傾向にはある。

葛西委員

53 ページでいろんな施策が◆で並んでいると思うが、結構何々と連携し、生活支援コーディネーターと連携し、サービス提供の構築を目指します。一番下だと支援体制の構築を目指しますっていう形で結構重要なところだと思うのだが、将来に委ねてるというか具体的などころが見えないというのがすごくこのページで感じてしまって、さっき関谷先生からあらゆる世代という言葉もあったが、あらゆる世代になると一気にこの行政の役割がそれぞれの課で分かれてしまうというか、この 53 ページの施策で書いてあるところは、福祉関連の課がやるのか、でも一番下の◆には子どもというワードが出てきて、そうすると子供関連の課がやるのかみたいなので、この地域共生社会っていう言葉もすごく言葉は綺麗かもしれないが、それを構築するにはやはり課を超えて、一緒に話す場とかを具体的に作っていかないと、この文言だけがここに並べられていて、何も変わらない状況になっちゃうのかなっていうのを感じた。もし役場の中で具体的にこういう組織を作って、こういう会議体を作って、本当にこの地域共生社会を目指す体制を整えるという計画が少しでもあるのであれば書くとか、ないのであればそういう協議会なのか会を作ることが全ていいとは思わないが、これをどの課がやるのかいうところがどこまでここに書いてある内容で議論されているのかが気になった。

もう 1 つは先ほどから大学生の受入の話とかいろいろな場所に記載があるので、どこに記載するのがいいか分かりませんが、65 ページの上から 1、2 個目の◆とかは移住促進に対していろんな対策をすることが書かれていて、2 つ目とかも大学や各種団体と連携したとは書かれてはいるが、その具体的な内容が何か動いているのであれば、例えば産官学連携施設の話とか、こないだ東北大学が発表されたところにたまたまお伺いして、そこに宿泊施設も大学が作るみたいな話とかも出ていて、あれは発表されていることだと思うので、何かその特定の大学名を入れるのはあんまりよく

事務局	ない話なのかもしれないが、何か決まっていることがあるのであれば、もうちょっと具体的に入れてもいいのかなとは思った。 1 つ目の役場全体の取り組む体制という話についてだが、役場の中で各課横断的な課題を共有したりその事業を進めるためにその政策調整会議という会議もあるので、その場になるのか、また別の物を作って推進していくのかはちょっとはつきりしないがそういう各課横断的な課題に対応する会議もあるのでその場を活用して進めていければと今の段階では考えている
関谷委員長	具体的な記述についてはさっき言った通りだが、移住定住についてこの辺りでいうのであれば、もっとストレートに 65 ページとかだったら、移住定住を推進しますと書いてもらって、具体的にどうするかみたいなのを東北大のでもいいし、F-REI のところでもいいし、2 つ目の◆に入れるのか、そういうのを具体的に書いていただくという感じがいいかと思う。もう少し文章を明確に書いていただいても確かにいいのかと思う。
佐藤（祐）委員 事務局	この※印というのは、どういうふうな捉え方になるのか？ 前期計画の中では専門的な用語に対して最後の方に資料編というのがついてきて、用語の説明があるのだが、注釈の印になっている。これから書き加えられるということになっている。
前司委員 事務局	移住定住は外国人はあまりしようとしていないイメージなのか？ 実際には絞っているわけではない。外国人を対象にしていないとか、日本人を優先しているとかはない。
前司委員	言葉の壁もあるが文化の違いとか、人が一気に増えると、いろんな衝突があるので。青森県の三沢基地に行くと外国人の住むところと日本人が住むところが分けられたりする。トラブルが起きることもあるので、融合をどのようにしていくのが課題になると思う。
関谷委員長	では 1 章の後半部分を簡単に説明願いたい。 ・事務局説明（第 1 章 施策 2 新たな産業と雇用の創出以降）
関谷委員長	ここはだいたい書き加えられているがご意見はどうか？ 16 ページの体験教室とかリビングラボとか細かすぎるので、抑えた書き方の方がいいかと思う。たぶんリビングラボは 5 年後くらいには言葉としてないような気もするので、もうちょっと柔かく連携を強化して、小中学生の体験活動などを増やしていきますぐらいの方がいいんじゃないかなと思う。あと先程の 19 ページ、外国人観光客に向けて外国語併記の案内板設置や外国語観光パンフレットの配布のところは観光客だけではなく、外国人の観光客や外国人の移住定住に向けみたいな感じにしておくだけでも意味があるかと思う。他はどうか。
前司委員	FH2R がたぶんあと 2 年後にはという話があるが、その後の情報は何か入ってきているか？
事務局	ない。引き継がれるように進めているが引き継ぐ先がどこなのかはまだ情報は入っていない。国とのやり取りも産業振興課がしている。方向性は今言ったように商用化して引き続き、あそこに置いて、水素製造して供給するっていうようなところの拠点にするといった方向性になるように動いている。

関谷委員長	書く書かないかは別にして（２）の 15 ページのところにそういうのを定着するように積極的に取り組んでいくような計画なので、そういうのがはっきりと町の意味として記載されてもいいかと思う。実証実験は FH2R が行われており、これがちゃんと定着して、町として産業の育成や、水素タウンに繋がるように積極的に取り組んでいくみたいなのが、もうちょっとはっきりと書いて欲しい、書いてあった方がいいってことですよね？
前司委員	いや、そういう方向性が変わっていなければ書いておいても問題はないかと思う。
関谷委員長	あるならあるということ書いておいた方がいいかと思う。
鈴木委員	観光協会について、具体的に震災前は観光協会というものがあったようなのだが、それがもう機能していなくて、新しく観光協会立ち上げる話がちょっと出たのでその辺りも加えた方がいいのでないだろうか。
事務局	現状の段階だと観光協会なのかどういった形なのか、観光協会で行っていた業務みたいなのを担えるような組織は検討している。ただそれを今、具体的にこの計画のところで、書けるかという、まだ確定はしていない。そういったものを来年度か再来年度なのか、作りたいなとは考えているが、まだ書くような情報はない。
事務局	19 ページの 1 つ目の◆の文章や、上から 5 つ目の 3 行目の行政・団体・町民の協働による観光人材の確保・育成と観光組織体制の構築を検討しますと記載しており、今そのフェーズに来たくらい。
事務局	先程の FH2R の商用化のところの話で、委員長の方からも企業誘致のあたりに少し書けないかという話があったが、現状 47 ページの上から 3 つ目の◆にゼロカーボンシティの推進の方で少し、FH2R にふれているところがある。商用化云々について書き足すのであればこの辺りかと思うので担当課と確認をしたい。ただ商用化することは決定しているので、現状と課題の方に書き足すとかも検討したい。
関谷委員長	ここにあるならまずここに足していただきたい。こういうのは 2 つあってもいいと思うので、ここに書いてあって、もう 1 か所重複でというふうに書いてもらった方がいいかなと思う。 他にはどうか。まだ最終原稿ではないので、追加等あれば皆さんの方から追加でいただければと思う。

次第 3	後期基本計画「こども版」の作成について ・事務局説明＜資料 4＞＜資料 5＞
関谷委員長	ポイントが 2 つあり、要は小学校 5 年生対象ということで、対象年齢がこれでいいのかという対象年齢の設定がまず 1 つと、あと 8 ページ、12 ページ、16 ページ、4 ページは少なすぎと町の方では記載いただいたが、私の副読本なので多くてもいいかなとは思っている。ページ数と対象年齢、これが大体これぐらいの感覚でいいかというのを今日皆さんからご意見というか合意いただければと思う。申し訳ないが小林委員には町の方から直接聞いていただきたい。方針としてはこれでいいか。
鈴木委員	8 ページと 12 ページ、両方作るのか？
関谷委員長	それは二度手間かと思うので、どちらかに絞る。私は字を大きくするので、ほとんど同じ枚数でも別に特に問題ないのではないかなと思う。これはもう作ってみたいと

鈴木委員	わからないと思うのでページ数はちょっと 1 回原案を作成していただくときにおまかせという形でいいか。 載せるキャラクターはうけどんシリーズでやるのか？家族がいっぱいいるので登場させたら面白いと思う。
葛西委員	せっかく子供向けに作るのであれば読んで欲しいし、興味を持って欲しい。表紙のデザインを子供に絵を描いてもらって、コンテストにするとか、作業が増えることになるが、参加するという機会があると思う。なみえ創成の子は絵心があると思う。
前司委員 事務局	漫画だったら何ページでも読めるのだが。 夏休みの宿題で浪江町の好きなところというテーマで絵を描いていたのでそれを使わせてくださいという感じだったらできるかなと思う。これ用に描いてくださいとなるとなかなか子供たちの時間を取るのも難しいかと思う。
関谷委員長	1 回どこかで見てもらうとかは必要かと思うので、引き続き、復興計画と概要版と別に走らせるものとしてお任せしつつ進めていただければと思う。漫画とか表紙を子供に書いてもらうとかの意見は、ぜひ言っていていただける限り、対応していただければと思う。
次第 4 事務局	その他 事務局から 2 点。今回の委員会を踏まえ、この計画書の土台を作成し、10 月にパブリックコメントにかける予定。委員の皆様からパブリックコメントのご意見をいただくことも可能なのでぜひご協力いただければと思う。 もう 1 点は委員の変更となる。今回、異動、代表が変わったことにより、2 名の委員が今回変わる形となった。半谷貞辰様が代表退任されたことによって新代表の半谷秀辰様が新委員として変更になる。もう 1 名は F-REI 統括理事の木村様が 8 月異動で東京に戻られて物理的に参加が難しくなったということで新理事の高谷浩樹様に引き継ぐこととなった。以上 以上